

ぜんそくとアトピー性皮膚炎

講演とQ&Aで
自己管理への道

主催 NPO法人 日本アレルギー友の会
後援 (財)日本アレルギー協会

平成18年6月11日(日) 12時30分～16時

開場12時

東医健保会館ホール

東京都新宿区南元町4 TEL03-3353-4311
(JR信濃町駅下車徒歩4分、裏面に案内図)

入場無料

プログラム

〈総 会〉

〈講師紹介〉

NPO法人 日本アレルギー友の会 常任顧問

(財)日本アレルギー協会 関東支部長・新八千代病院 外来部長 伊藤 幸治 先生

●●● 第一部 講演 ●●●

「小児ぜんそくの長期予後を改善するには？」

国際医療福祉大学教授、附属三田病院小児科部長 松井 猛彦 先生

「アトピー性皮膚炎—上手な対処法」

聖マリアンナ医科大学 名誉教授 溝口 昌子 先生

「成人ぜんそくの管理・予防におけるパートナーシップ」

帝京大学医学部内科学講座 呼吸器・アレルギー学教授 大田 健 先生

●●● 第二部 体験発表と講師を囲んでQ&A ●●●

体験発表 小児ぜんそくの部 「よい治療に出合って」 吉田 宏子さん

アトピー性皮膚炎の部 「泣く日々から結婚・出産まで」 和田 恭子さん

成人・小児ぜんそくのグループとアトピー性皮膚炎のグループに分かれ、上記の体験発表をしていただきます。講師を囲み、患者体験談を含めてQ&Aを行います。

臨床経験豊かな専門医のご意見と、熟練患者の体験談を間近で聞くことができます。患者の目線で医療を考えることができる非常に良い機会です。ふるってご参加ください！

講演の概略と講師の紹介



「小児ぜんそくの長期予後を改善するには？」

国際医療福祉大学教授、附属三田病院小児科部長 **松井 猛彦先生**

吸入ステロイドの普及は日々のぜんそく発作を減少させ、日常生活の質（QOL）を改善してくれました。新治療ガイドラインが出ると、「どうやって薬を使えばよいか」といったことに目が向きがちです。吸入ステロイドや抗ぜんそく薬だけでぜんそく死を防ぎ、治癒率を上げることが可能でしょうか？ ぜんそくの最新情報をもとに、小児ぜんそく治療をいかに進めるべきか、その戦略について考えてみたいと思います。

略歴

1972年 3月	信州大学医学部卒業	1994年 9月	東京都立荏原病院小児科医長
4月	同愛記念病院小児科研修医	2001年 7月	東京都立荏原病院小児科部長
1974年 4月	同愛記念病院医員	2005年 10月	国際医療福祉大学教授・附属三田病院小児科部長 (現在に至る)
1981年 4月	同愛記念病院小児科主任		
1987年 5月	東京都立豊島病院小児科医長		



「アトピー性皮膚炎—上手な対処法」

聖マリアンナ医科大学名誉教授 **溝口 昌子先生**

遺伝的な体質にさまざまな外因が加わり生じるのがアトピー性皮膚炎です。ホコリ、ダニ、食べものなど、多数のものが、外因（原因あるいは悪化因子）として疑われていますが、日常生活に密接に関連するものが多いので、あまり神経質にならず、できることから対応しましょう。また、遺伝的な体質も現在の医学では変えることはできません。快適な日常生活を送るために、ステロイド軟膏、プロトピック軟膏、保湿剤による上手な対症療法が大切です。

略歴

1964年	東京大学医学部医学科卒業、ECFMG取得	1984年	帝京大学皮膚科教授
1969年	東京大学医系大学院修了 医学博士号取得	1991年	聖マリアンナ医科大学皮膚科主任教授
1969年	東京大学医学部皮膚科助手	2003年	聖マリアンナ医科大学大学院医学研究科長兼任
1970年	米国ニューヨーク州立大学病理学教室（2年間留学）	2005年	同大定年退職、同大名誉教授（現在に至る）
1979年	帝京大学皮膚科助教授		



「成人ぜんそくの管理・予防におけるパートナーシップ」

帝京大学医学部内科学講座 呼吸器・アレルギー学教授 **大田 健先生**

ぜんそくは昼間の受診時には無症状であることも多く、患者さんがぜんそくの特徴を知っておくことが必要です。管理・予防においても、パートナーシップは不可欠です。医師が処方した薬物療法は、体内の作用部位に到達してはじめて実施されたと言えます。また予防方法は、実行されてはじめて効果を表します。ぜんそく死を回避し、ぜんそくに邪魔されることなく思い通りの日常生活を送れることを目標に、医師患者間でいっそうの連携をとりましょう。

略歴

1975年 3月	東京大学医学部医学科 卒業	1988年 1月	アメリカ合衆国コロラド州コロラド大学医学部 (1.5年間留学)
6月	東京大学医学部附属病院にて研修（2年間）		
1977年 7月	東京大学医学部附属病院物療内科 入局		ナショナルジュイッシュ免疫呼吸器研究センター 内科にて研究
1980年 4月	アメリカ合衆国コロラド州コロラド大学医学部 (3年間留学)	1989年 6月	東京大学医学部附属病院物療内科助手 その後、聖マリアンナ医科大学臨床検査学教室講師、 難病治療研究センター室長（併任）
	ナショナルジュイッシュ免疫呼吸器研究センター 内科にて研究	1992年 4月	帝京大学医学部第二内科学教室助教授
1983年 6月	東京大学医学部附属病院物療内科助手	1997年 7月	帝京大学医学部内科学講座教授（現在に至る）
1986年 5月	国立病院医療センター呼吸器科 出向		
1987年 7月	東京大学医学部附属病院物療内科助手		



講師紹介

NPO法人 日本アレルギー友の会常任顧問

(財)日本アレルギー協会関東支部長・新八千代病院外来部長 **伊藤 幸治先生**

お問い合わせ先

NPO法人 日本アレルギー友の会



〒135-0002 東京都江東区住吉2-6-5

インテグレート村上3F

☎03-3634-0865

<http://www.allergy.gr.jp/> e-mail: j-allergy@nifty.com

受付時間 11:00~16:00 毎週火曜・土曜

6月5日~10日は毎日受付

